

令和3年3月24日

それでは年度替わりにあたりまして、県民の皆様コロナ対策の徹底について呼びかけをさせていただきます。

昨年1月30日に県内で初めて新型コロナウイルス感染症が発生してから1年以上が経過し、昨日までで2650名の感染者が確認をされています。

新型コロナウイルスという未知のウイルスによる未曾有の危機を乗り越えるため、県民の皆様、事業者の皆様、関係機関、団体の皆様、市町、県が一丸となり、発生からこれまで、感染拡大阻止に取り組んできました。

その間、県では関係機関と連携しながら医療提供体制の確保に努めるとともに、県内感染状況に合わせて三重県指針の改訂を重ね、感染拡大を察知した場合は、速やかに県独自の緊急警戒宣言を発出するなどし、県民、事業者の皆様、移動や施設における感染防止対策など、様々な要請をさせていただきました。

幾度となく皆様の生活を制限するような心苦しいお願いもさせていただきましたが、感染防止対策と一緒に取り組んでいただいた県民、事業者の皆様、最前線で日々ご尽力いただいた医療従事者の皆様のおかげで、感染拡大の波を乗り越えることができました。

皆様には、あらためて心から感謝を申し上げます。

しかしながら、首都圏での感染者は下げ止まっており、変異株も感染拡大傾向にある中、依然として感染症の脅威は過ぎ去っておらず、一切警戒を緩める状況にはありません。

直近の県内感染状況においても、県民皆様のご協力のおかげで新規感染者数は1桁台が続き、3月22日には昨年10月28日以来145日ぶりに0名となるなど、低い水準を維持しているものの、県外由来や飲食の場での感染と思われる事例や、変異株の感染者も確認されており、引き続き高い警戒感をもって感染防止対策を徹底していく必要があります。

(資料を掲示) ちょっと数字だけ確認をしておきたいと思います。

昨日現在、病床占有率が17.9%、重症が7.5%、療養が人口10万人で3.95人。こういう形で下がって、前と比べると下がってきているものの、先ほど申し上げましたとおり、県外、あるいは飲食、あるいは変異株の拡大、そういうことがあり、警戒を緩めることはできないと考えております。

そこで対策について少し述べますが、これまでの感染拡大に至る状況を振り返りますと、まず行動範囲が広い比較的若い世代の方を中心に、県外で感染されたとと思われる事例が増加し、その後、飲食の場における感染や、家庭内感染が広がることで、県内に感染が波及するといった傾向が見られました。

ストップリバウンド、感染再拡大防止に向けては、いち早く感染の芽を察知し、摘み取っていくことで、感染者を増加させないことが重要です。

一人一人が、感染症に強い新しい生活様式を定着させ、持ち込まない、広げないための感染防止対策に取り組んでいただきますようお願いをいたします。

これは変異株の対策においても変わりはありません。

具体的をお願いをしていきたいことでもありますけれども、まずは入学入社転勤などで、県外との往来が増える時期を迎えています。歓迎迎会など、大人数や長時間となるような感染リスクが高まる場への参加は控えていただきますようお願いをいたします。

あわせて、事業所や学校におかれましては、転入転出される方に対し、持ち込まないための感染防止対策について、呼びかけていただくようお願いをしたいと思います。

(資料を掲示) ここにありますとおり、まず、ちょっと順番あれですけども、この飲食店への時短要請を行っているエリア、首都圏1都3県、あるいは名古屋市、大阪市などが継続されていますが、ここへの移動は避けていただきたいということ。

それから、そもそも県外への移動については、慎重にご判断をいただきたいということ。

それから言いましたように、大人数や長時間の飲食など感染リスクの高い場面は避けていただきたい。入学、入社、いろいろあると思いますが、歓迎迎会とかそういうので、大人数や長時間になる、そういう飲食の場面は避けていただきたい。

それから事業所や学校の皆様をお願いをしたいのは、転入転出されてくる、される方には、2週間前からリスクの高い場面を避けて体調管理を徹底するというので、持ち込まない、広げないという形で徹底をお願いしたいと思います。

それから、事業者の皆様に対しては、これまでも細心の注意を払っていただいておりますけども、業種別の感染拡大防止のガイドラインの確実な実践などをお願いしたいと思いますのと、とりわけ医療機関、社会福祉施設など、県内においてクラスターが発生している施設では、あらためてガイドラインの徹底、特に従業員や利用者の方への注意喚起をぜひお願いをしたいと思います。

(資料を掲示) 今のを少しまとめて申し上げますと、要はこれまでの経験や教訓ということで、要は感染リスクの高い場面や行動というのは何なのかということが分かってきた、例えば今の大人数長時間の飲食であるとか、あるいは県外のところの移動であるとか、こういう感染リスクの高い場面や行動、あるいは感染防止に何が必要か、3密、マスク、人との距離、あるいは、手洗いの徹底とかですね。何が必要かということ。それから少し気を緩めることで、拡大が広がってしまうということ。

これらが、これまでの経験を教訓に分かってきたことですので、あらためて、そういった対策を徹底していただいて、この難局を克服していきたいと思っています。

これらの対策は、変異株に感染しないための対策も同じです。

ですので、これらの対策をあらためて徹底をしていただいて、年度替わりでありますけれども、ストップリバウンド、再拡大しないようにぜひ皆さんと一緒に取り組んでいき

と思いますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

併せまして、これまでも申し上げてきましたが、戦うべき相手はウイルスであり、人ではありません。

感染された方や、そのご家族、医療従事者、県外から来県される方、外国人住民の方などに対する差別誹謗中傷、いじめは絶対に行わないでください。

戦前の物理学者で、随筆家でもあります寺田寅彦氏は、著作の中でこう語られています。「ものを怖がらな過ぎたり、怖がり過ぎたりするのはやさしいが、正當に怖がることはなかなか難しい。」こういうふうにおっしゃってます。

新型コロナウイルスに対する感染防止対策の難しさは、まさに今申し上げたようにこのような部分であったと思ひます。

私たちは、全く未知のウイルスであった新型コロナウイルスとの戦いを経て、感染リスクの高い場面や行動、感染防止に必要な対策などについて、多く教訓を得てまいりました。少しの気の緩みが、感染拡大に繋がる恐れがあることも身をもって知りました。

常に高い緊張感を持ちながら生活していくのは簡単ではありませんが、これまでの経験を教訓にして、一緒に息の長い取り組みを継続した先に、必ず道は開かれ、この困難な局面を克服できると信じています。

県としましても、切れ目なく経済対策を講じることで、事業者の皆さんをしっかりと下支えしていくとともに、感染防止対策やワクチン接種の円滑な実施に全力で取り組むことで、県民皆様の不安軽減に努めてまいりますので、引き続きのご協力をお願いしたいと思います。

以上です。